



米原機関車避難壕位置図

[平成 29 年 12 月 11 日米都計第 357 号の承認により都市計画図白地図を使用。]



南東列車壕入口



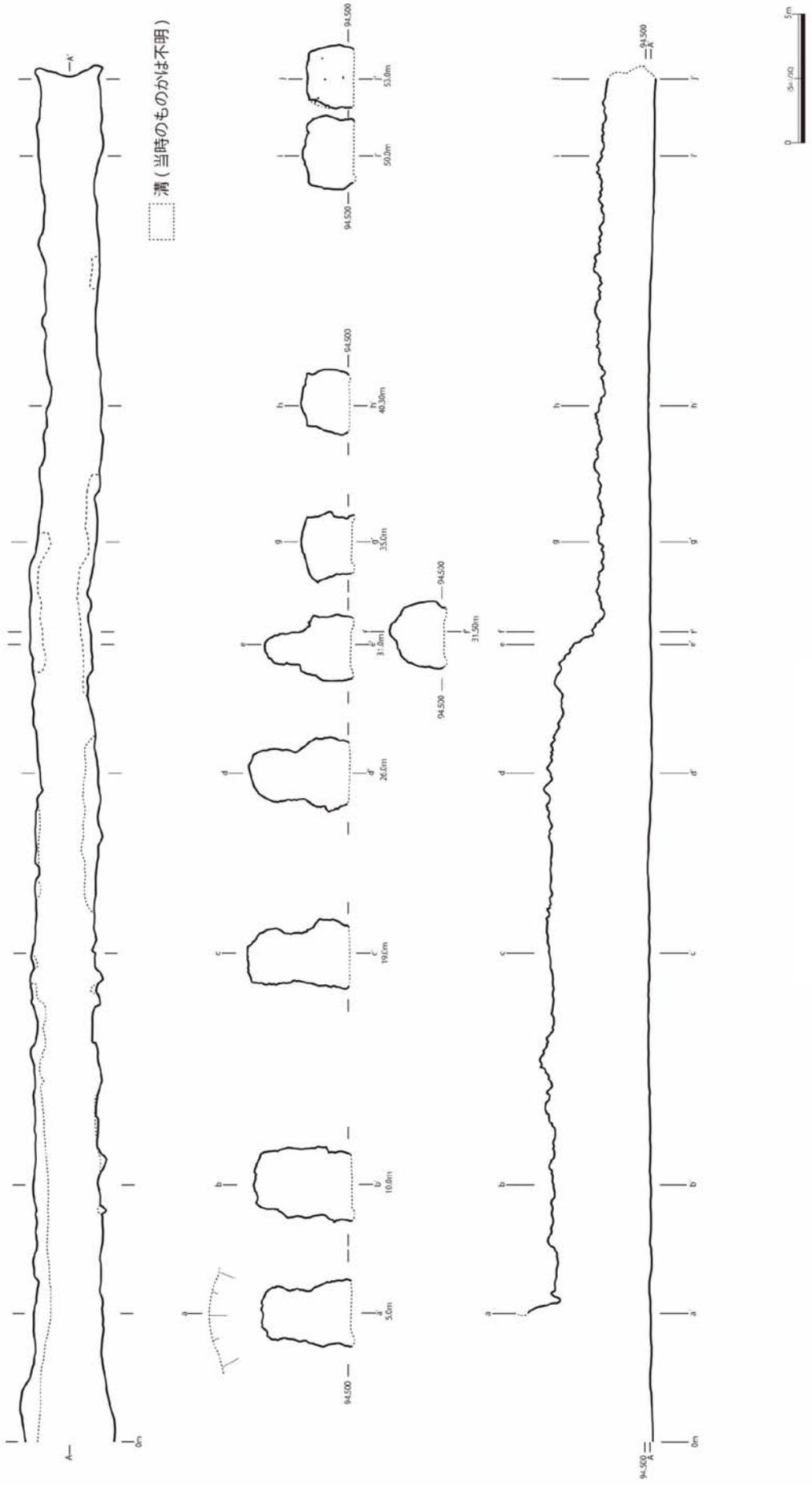
北東列車壕入口



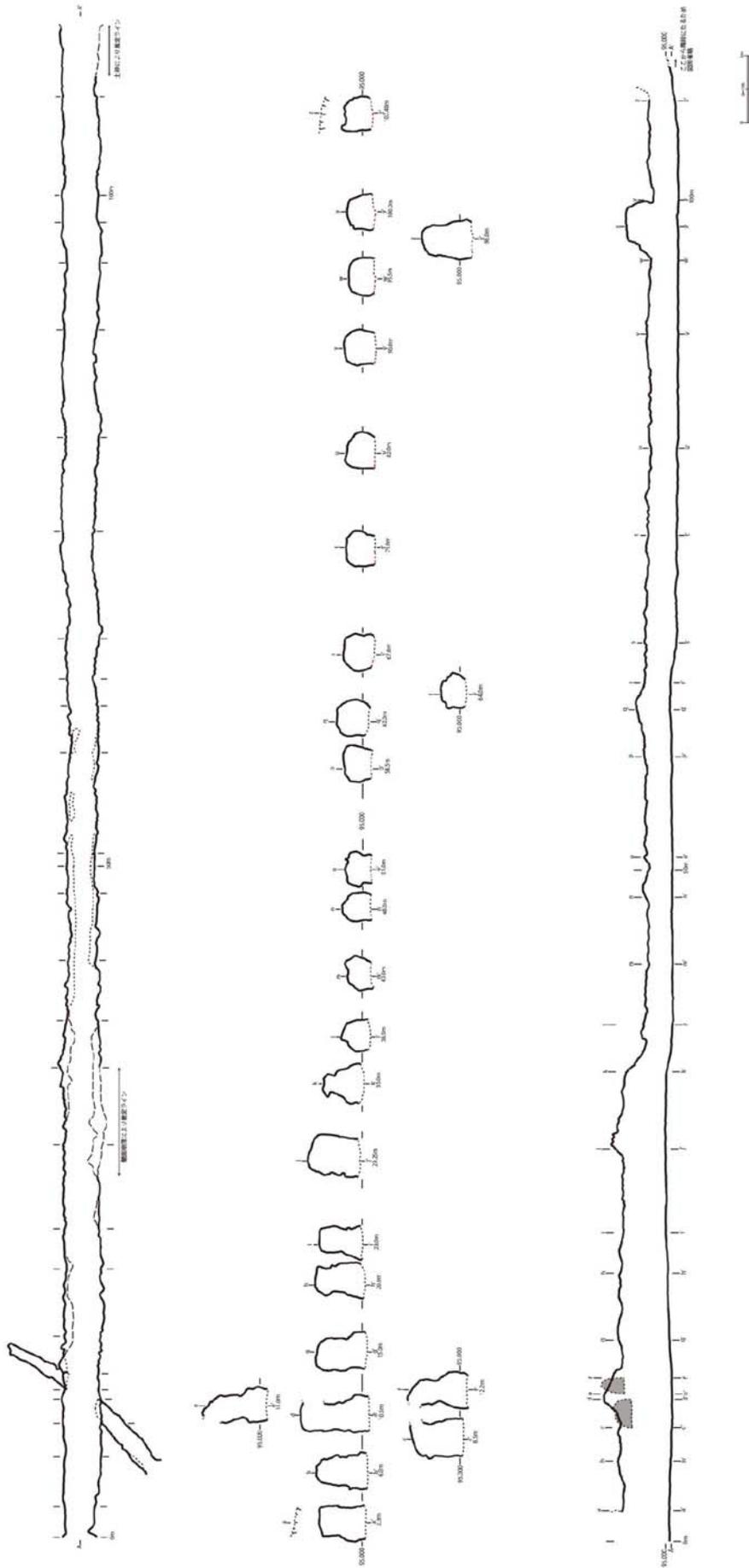
東列車壕入口(南東から)



東列車壕(北東から)



南西列車壕 (平面図・断面図)



東列車壕 (平面図・断面図)

おわりに

滋賀県では早くも明治 8(1875)年に大津に陸軍第九連隊が設置されている。この連隊は明治 10(1878)年の西南戦争に参加し、多くの将兵が戦死した。このためその翌年には三井寺の観音堂に記念碑が建立されている。この記念碑は場所は移転しているが、三井寺の境内地に今も残されている。

さらに大正 7(1918)年のシベリア出兵にも参加しており、その戦勝記念の絵馬が現在も三井寺の絵馬堂に掛けられている。しかし大正の軍縮により第九連隊は京都に移転し、以後滋賀県内に連隊が設置されることはなかった。このため県内には大きな軍事施設や軍需工場もほとんどなく、戦争遺跡といえば八日市飛行場の掩体のみが知られる程度であった。

ところが実際に調査をおこなうと数多くの戦争遺跡の残されていることが明らかとなった。それは連隊も設置されていない県にもこれほどの数の戦争に関わった施設があったという驚きでもあった。滋賀県のこの分布数に総力戦の実態を見ることができる。

戦後 72 年の歳月は多くの戦争にかかわる施設を消滅させた。さらに戦争を知る世代は超高齢化しており、その実体験を語る人もほとんどいなくなってしまうている。そうした現状で戦争遺跡は実際に戦争に関わって造られた施設であり、戦争の証言者なのである。今後は戦争の語り部として保存、活用していかなければならない。

最後に今回の調査で実測をおこなった米原の機関車避難壕が 2017 年 7 月に米原市の史跡に指定された。滋賀県下において最初の戦争遺跡として史跡指定を受けることとなった。

本報告によって戦争遺跡が今後さらに文化財として認識され、語り部として保存されることを願ってやまない。

附1 滋賀県戦争遺跡一覧表

空襲

	所在地		内容	分布図	掲載文献
1	大津市	園城寺町	法明院の空襲被害 昭和20年7月30日(?) 本書3頁	1	祈念館 [H18-011]
2	大津市	園山一丁目	東洋レーヨン石山工場の空襲 昭和20年7月24日午前7時47分 B29一機が飛来し、模擬原爆であるパンキン爆弾1発を投下。施設へ被害 をもたらし、死者16名・重軽傷者104名におよんだ。	1	『戦災概況図』大津市 (1945) 『新修大津市史』第6巻 (1983) 水谷『本土決戦と滋賀』 (2014)
3	大津市	唐崎・御陵町	滋賀海軍航空隊・陸軍大津少年飛行兵学校の空襲 昭和20年7月28日昼すぎ 滋賀海軍航空隊の駐機中の飛行機が機銃掃射により攻撃を受けた。	1	米穀戦略爆撃調査団文書「海軍・海 兵隊艦載機戦闘報告書」(英文) 水谷『本土決戦と滋賀』 (2014)
4	大津市	唐崎・御陵町	陸軍大津少年飛行兵学校・滋賀海軍航空隊の空襲 昭和20年7月30日昼ごろ 飛行兵学校にロケット弾、滋賀航空隊に機銃掃射。	1	米穀戦略爆撃調査団文書「海軍・海 兵隊艦載機戦闘報告書」(英文) 水谷『本土決戦と滋賀』 (2014)
5	大津市	唐崎・際川	滋賀海軍航空隊・大津海軍航空隊の空襲 昭和20年7月30日15時30分ごろ 滋賀航空隊にロケット弾、大津航空隊に機銃掃射。	1	米穀戦略爆撃調査団文書「海軍・海 兵隊艦載機戦闘報告書」(英文) 水谷『本土決戦と滋賀』 (2014)
6	彦根市	長曾根町・ 馬場・岡町・ 東沼波町	彦根の空襲 昭和20年7月25日 P51・F6等の艦載機が鐘紡長曾根工場と近江航空西馬場工場に小型爆弾3 発、小泉・彦根駅間を進行中の国鉄列車や西沼波町付近進行中の近江鉄道 列車に機銃掃射。	7・8	『戦災概況図』彦根市 (1945) 『彦根市史』下冊 (1964)
7	彦根市	長曾根町・ 馬場	彦根の空襲 昭和20年7月28日 二度にわたり、鐘紡長曾根工場と近江航空西馬場工場に小型爆弾による爆 撃、機銃掃射、さらに焼夷弾攻撃を受ける。工場3棟など全焼。	7・8	『戦災概況図』彦根市 (1945) 『彦根市史』下冊 (1964)
8	彦根市	松原町	彦根の空襲 昭和20年6月22日 松原町地先湖中に焼夷弾落下。被害なし。B29によるものか。	詳細位置 不明	『彦根市史』下冊 (1964)
9	彦根市	外町	彦根の空襲 昭和20年7月30日 鐘紡長曾根工場と近江航空外町及び西馬場工場・小野田セメント彦根工 場・彦根駅・花田国民学校が攻撃される。近江航空外町工場は250kg大型爆 弾3発投下され、新工場全焼など。	7・8	『戦災概況図』彦根市 (1945) 『彦根市史』下冊 (1964)
10	彦根市	出路町	稲枝の空襲 昭和20年5月17日 稲枝村高田工場付近に焼夷弾760発投下。B29によるものか。	7	『彦根市史』下冊 (1964)
11	彦根市	東沼波町	旭森国民学校の空襲被害 昭和20年5月14日 登校中の児童5名が機銃弾の破片を受けて負傷。	7・8	『新修彦根市史』第3巻 (2009) 祈念館 [H07-160]
12	彦根市	小泉町・西今 町	城南国民学校の空襲被害 昭和20年6月26日 本書5頁	7	『戦災概況図』彦根市 (1945) 『多賀町史』下巻 (1991) 『広野町史』 (1996) 『新修彦根市史』第3巻 (2009)
13	彦根市 /豊郷町	南川瀬・西今 ・安食	昭和20年7月31日、彦根市南川瀬・西今町、豊郷町安食西地先の水田に爆弾 各1個投下。伝単数千枚散布。	詳細位置 不明	『彦根市史』下冊 (1964) 『広野町史』 (1996)
14	長浜市	長浜	旧鐘紡長浜工場の空襲 昭和20年7月28日 (『滋賀県医師会70年史』には「8月6日」とあるが、『戦災概況図』には 「7月28日」となっている。) 本書7頁	9	『戦災概況図』長浜市 (1945) 『滋賀県医師会70年史』 (1958)
15	長浜市	塩津	防空色を施した土蔵。 本書9頁	12上	
16	米原市	朝妻筑摩	明光寺の空襲被害 日時不明 本書10頁	7・8	祈念館 [H26-065]
17	米原市	大野木	防空色を施した旧柏原村穀物倉庫。 本書11頁	10	
18	守山市	吉身6丁目	六地藏の空襲被害 昭和20年7月30日 守山駅付近の列車への空襲で被災。 本書13頁	2	水谷『本土決戦と滋賀』 (2014)
19	甲賀市	上野	甲賀の空襲 昭和20年7月30日 米軍機一機が上野の産業組合中央倉庫を機銃掃射した。	6	『ふるさと油日』 (1998)
20	高島市	角川・梅原	今津の空中戦 昭和20年7月28日朝 特攻隊として鹿島から北九州へ向かう零式水上観測機4機が、第2河和海軍 航空基地(愛知県)から久美浜を指す途中、今津町上空でペローウッド 発のグラマンF6F4機と遭遇し、空中戦となった。日本機はすべて撃墜さ れ、角川集落東側山斜面に2機、北西赤岩谷に1機、梅原荒谷支流ワル谷に1 機が墜落。8名中7名が戦死。	11上	『今津町史』第3巻 (2001) 水谷『本土決戦と滋賀』 (2014)
21	高島市	新町 (音羽?)	高島の空襲 日時不明 空襲警報により、第一小学校(現高島小学校)から音羽へ帰る児童達が小 田川土手で機銃掃射にあったという。昭和20年7月27日、小田川橋詰に避難 壕を作った。	11下	『高島町史』 (1983)

	所在地		内容	分布図	掲載文献
22	東近江市	上羽田町	八日市の空襲 昭和20年7月25日 八日市飛行場を空襲した米軍機一機が火を噴きながら上羽田西方に不時着し、パイロットが捕虜となった。憲兵隊が平田村役場へ連行し、英語が少しでもできる小学校教員に通訳させたが、うまく通じなかった。 (『八日市市史』には「7月24日」とあるが、25日の誤り)	3	『八日市市史』第4巻(1987) 『蒲生町史』第2巻(1999)
23	東近江市	中里町国道307号沿い	八日市の空襲 昭和20年7月25日 この日の空襲に迎撃した小原大尉は、米軍機に体当たりしたあと落下傘で脱出したが、着陸した時には亡くなっていた。着陸地点に建てられた慰霊碑は、いまは中里町の国道307号線沿いに移築されている。	4	中島『陸軍八日市飛行場 戦後70年の証言』(2015) 水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』(2015)
24	東近江市	石谷	八日市の空襲 昭和20年7月30日 この日の空襲により、石谷の幼児2名が死亡。慰霊碑あり。	4	水谷『本土決戦と滋賀』(2014) 祈念館(H08-058)

軍事施設

	所在地		内容	分布図	掲載文献
25	大津市	晴嵐1丁目	高射砲陣地 現栗津中学校付近の埋め立て地にあった。	1	水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』(2015) 祈念館(H07-052)
26	大津市	大江1丁目	高射砲陣地 瀬田川橋梁を空襲から防御するために、橋梁の南東側河川埋立地において、高射砲一個中隊(高射砲第122連隊の一中隊)が派遣され、七輻高射砲6門が配備された。米軍撮影空中写真(1948年3月撮影)には高射砲陣地跡が撮影されている。	1	水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』(2015) 祈念館(H07-052)
27	大津市	御陵町	陸軍歩兵第九連隊・大津陸軍少年飛行兵学校 1873年(明治6)大津への連隊駐屯が決定され、1875年(明治8)年に大阪鎮台管下の陸軍歩兵第九連隊が駐屯。兵営は別所村を中心とした旧園城寺領31,800坪であり、現大津商業高校・現皇子山総合運動公園一帯にあたる。1925年(大正14)に連隊司令部が京都深草へ移転し、大津衛戍病院も廃止され、兵営規模が縮小された。その後、1940年(昭和15)の軍令改正による各県一連隊区制の実施にあたり、大津連隊区が復活した。 陸軍は飛行兵の不足を充足するために、養成機関の増設を計画し、1943年(昭和18)4月大津に陸軍少年飛行学校の新設が決定。第九連隊陸軍病院を移転させ、その跡地を充てた。同年4月15日に開校式を挙げる。それ以降、15期〜21期生を養成。現大津商業高校付近。 【正門】 現県立大津商業高校正門 【火薬庫】 大津歴史博物館裏 本書15頁 【半地下壕】 県警機動隊裏 【「兵営前」プラットホーム】 大津商業高校前京阪石坂線軌道	1	中島『高校生のための社会科読本2 統軍都・大津』 『新修大津市史』第6巻
28	大津市	皇子が丘町1丁目	大津陸軍墓地 本書17頁	1	山辺「全国陸海軍墓地一覧」『国立歴史民俗博物館研究紀要』102 2003
29	大津市	大門通	大津連隊区司令部 1940年(昭和15)の軍令改正による一府県一連隊区制により、大津連隊区司令部が大津に設置された。1941年(昭和16)4月1日に滋賀県物産陳列館で仮開庁し、同5月3日に現長等小学校敷地内に司令部が正式開庁した。	1	中島『高校生のための社会科読本2 統軍都・大津』 『新修大津市史』第6巻
30	大津市	大谷町	陸軍大谷射撃場 本書29頁	1	水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』(2015)
31	大津市	大津市	皇子山射撃場 陸軍の実弾射撃訓練のための射撃場。銃の性能向上のために大谷射撃場が手狭となり、新射撃場として設置されたようであるが、第九連隊の京都移転に伴い、使用頻度が減少したようで、最終的に「国防協会」の施設となり、昭和には放置されたと考えられている。	1	水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』(2015)
32	大津市	際川1丁目	大津海軍航空隊 32頁	1	中島『高校生のための社会科読本2 統軍都・大津』 『新修大津市史』第6巻
33	大津市	滋賀里3丁目	大津海軍航空隊射撃場 37頁	1	水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』(2015)

	所在地		内容	分布図	掲載文献
34	大津市	唐崎1丁目・2丁目他	滋賀海軍航空隊 ミッドウェー海戦後に喫緊の課題となったパイロット養成を図るため、養成機関の短縮・養成機関の増設が実施され、1944年（昭和19）に8月15日滋賀海軍航空隊として下坂本村に新設。ここでの訓練生は、その後神風特別攻撃隊への参加、特攻艇震洋による水上特攻や人間魚雷回天等の水中特攻要員となる。現JR湖西線唐崎駅から琵琶湖にいたる西側一帯。	1	中島『高校生のための社会科読本2 統軍都・大津』 『新修大津市史』第6巻
35	大津市	坂本本町	桜花訓練基地 1945年5月比叡山ケーブルカーは海軍に接収され、ケーブルカーや諸施設は基地建設に使用された。基礎工事を開始し、7月頃にはカタパルト等の施設の設置にいった。8月敗戦直前にカタパルト台車の射出試験にも成功し、実機と練習機の到着を待っていた。現比叡山ケーブルカー山頂駅付近。	1	水谷『本土決戦と滋賀』（2014）
36	大津市	馬場1丁目	天虎飛行訓練所 民間の水上機訓練所。1935年（昭和10）6月に藤本直一等飛行士が所長となり開設。当初は琵琶湖遊覧飛行と飛行士養成を、1938年（昭和13）からは整備士養成を行う。1943年（昭和18）3月に福山高等航空機乗員養成所に吸収され廃止されるが、同年5月には大日本飛行協会天虎飛行訓練所となり、学生中心の操縦訓練が継続する。1945年（昭和20）には訓練生が特攻を志願し、特攻訓練を行うが、敗戦により解散。練習機以外の水上機は沖合に投棄したという。現西武百貨店前公園付近。	1	中島『高校生のための社会科読本2 統軍都・大津』 『新修大津市史』第6巻
37	長浜市	大依町	大依山射撃場 39頁	9	水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』（2015）
38	近江八幡市	北ノ庄	北ノ庄八幡射撃場 41頁	2	水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』（2015）
39	野洲市	菖浦	天虎飛行訓練所菖蒲基地 大津にあった天虎飛行訓練所が所有した水上飛行機の一部を菖蒲浜に分散。中洲尋常高等小学校菖蒲分教場を本部とした。	2	『中主町史』 祈念館〔H27-082〕
40	野洲市	野田	野田沼捕虜収容所 〔大阪捕虜収容所 野田沼分所（第23分所）〕 43頁	2	祈念館〔H07-046〕 水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』（2015）
41	高島市	饗庭	饗庭野演習場 明治19年売却、明治41年拡張、明治43年第4師団から第16師団管下へ。 【廠舎】 45頁	11上	『新旭町史』（1985）
42	高島市	北船木	舟木着陸場 大正11年、八日市飛行場から饗庭の演習地への途中着陸場として飛行場を整備。地元では川崎飛行場と呼ばれた。約7万坪。仮格納庫・艀には灯台があった。昭和19～20年には少年飛行兵のグライダー飛行訓練所となった。少年飛行兵は北船木の寺に合宿。グライダー格納庫は米糧搬機の機銃掃射を受けた。現びわ湖こどもの国。	11下	『南船木史』（1999）
43	東近江市	沖野1～5丁目 東沖野1～5丁目 妙法寺町 尻無町 聖和町ほか	八日市飛行場 大正11年（1922）開設。飛行第3連隊が駐屯した。早い時期に開設された陸軍飛行場のひとつである。昭和17年（1942）に第3連隊が権太へ移駐すると、爆撃機の飛行士を養成した中部第94部隊と地上勤務者を養成した中部第98部隊が駐屯した。 【沖原神社・飛行第三連隊門柱】43-1 47頁 【戦闘準備線】43-2 49頁	3・4	『八日市市史』第4巻（1987） 中島『陸軍八日市飛行場 戦後70年の証言』（2015） 水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』（2015）
44	東近江市		八日市飛行場 布引掩体群 51頁	3・4	『東近江市埋蔵文化財調査報告書』第21集（2013） 中島『陸軍八日市飛行場 戦後70年の証言』（2015） 水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』（2015）
45	東近江市		八日市陸軍飛行連隊病院 昭和16年に設立。飛行場内に衛戍病院があったが、これを発展移設したものである。現在の東近江総合医療センター（旧国立八日市病院）。	3・4	
46	東近江市		芝原町揚水機場 54頁	3・4	中島『陸軍八日市飛行場 戦後70年の証言』（2015）
47	東近江市		八菰荘 昭和18年に設置された将校宿舎。終戦間際には特攻飛行士もここに宿泊した。現在の金屋大通り上之町交差点付近、タウンホール八日市の東に隣接するアパート敷地であった。	3・4	中島『陸軍八日市飛行場 戦後70年の証言』（2015）

	所在地		内容	分布図	掲載文献
48	東近江市		正気荘 飛行場開設以前から開店していた招福楼は、昭和19年、軍の要請を受けて、移設してきた中部第98部隊の将校宿舎となり、「正気荘」と改名した。	3・4	中島『陸軍八日市飛行場 戦後70年の証言』（2015）
49	東近江市		借行社 国道421号線（八風街道）沿い北側で、東本町東交差点から近江バス車庫あたりまでが敷地であった。借行社は陸軍将校の親睦団体・互助会的組織。 施設は、北五個荘村宮荘の藤井彦四郎氏が建設した「星空会館」で、昭和12年に開館と同時に飛行第三聯隊へ寄付され、昭和14年7月に借行社と改称。 戦後八日市高校農業部校舎に利用され、失火により焼失したという。	3・4	『五個荘町史』第2巻（2004） 中島『陸軍八日市飛行場 戦後70年の証言』（2015）
50	東近江市	東近江市八日市東本町	京都地区憲兵隊伏見分隊 八日市分遣所 55頁	3・4	中島『陸軍八日市飛行場 戦後70年の証言』（2015）
51	東近江市		八日市鉄道 飛行場前駅(御園駅) 57頁	3・4	『八日市市史』第4巻（1987） 祈念館〔H07-044〕
52	東近江市	山上村	陸軍八日市病院疎開病棟 1945年春先、鈴鹿山脈の永源寺方面のバス停「山上」あたりへ疎開。 「釣宿を兼ねた旅館（中略）を借りあげて八日市陸軍病院の分散疎開病棟は布置された」「本部は角屋という旅館」「山上国民学校高野分教場に置かれた高野病棟」	4	『川崎彰彦傑作選』「河鹿」
53	東近江市	葛巻 日野川原	葛巻射撃場 日野川河原にあったという。	3	『蒲生町史』第二巻（1999）
54	東近江市	平林町	八日市飛行場 平林射撃場 59頁	3・4	水谷「滋賀の戦争遺跡と空中写真」(2015) 西田「陸軍射撃演習場(平林地区)について」『蒲生野』47 2015
55	東近江市	伊庭	能登川捕虜収容所 〔大阪捕虜収容所 能登川分所（第24分所）〕		『東近江市史 能登川町の歴史』第三巻（2014）
56	米原市	伊吹山	海軍航空機着氷実験施設（現存せず）	10	『写真でふりかえる伊吹山物語』(2015)
57	米原市	磯	磯山射撃場 63頁	7・8	水谷「滋賀の戦争遺跡と空中写真」(2015)
58	米原市	梅ヶ原	米原俘虜収容所 〔大阪捕虜収容所 米原分所（第25分所）〕 コンクリート橋が残る。 66頁	7	水谷「滋賀の戦争遺跡と空中写真」(2015)
59	多賀町	久徳 中河原 木曾	木曾飛行場 彦根の近江航空から飛行機を搬出するために海軍が建設。	7	『新修彦根市史』第3巻（2009） 重岡「海軍久徳飛行場の研究」 『紀要』19 県文化財保護協会（2006）

監視哨

敵飛行機の襲来を監視する仕組みは府県庁・府県警察部がない、防空監視隊が設置された（防空監視隊令、昭和16年制定）。滋賀県庁保管の「防空通信整備費起債ノ義ニ付許可申請」（昭和14年）の付図「滋賀縣防空通信系統図」に監視哨が一覧（27ヶ所）されている。また、清水啓介『防空監視哨調査』（2011）には元監視哨員が列挙した一覧（14ヶ所）と独自調査の8ヶ所が示されている。両者には重なる場所が多いが異同もある。このほか、各地で採録された体験談によると、上記以外にも監視哨があったことがうかがえる。

	所在地		内容	分布図	掲載文献
60	大津市	浜大津1丁目	大津監視哨 大津商工会議所（旧大津公民館）の消防監視哨があり、防空監視哨にあたる可能性がある。	1	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
61	大津市		堅田監視哨 詳細不明	詳細位置不明	「滋賀県防空通信系統図」（1939）
62	大津市	木戸	木戸監視哨 木戸村役場→現西安霊苑	12下	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
63	大津市	伊香立途中町	途中（伊香立）監視哨 県境近くの山頂にコンクリート基礎ほかが残る。	12下	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
64	大津市	里3丁目	下田上監視哨 旧村役場（現JAレーク大津東大津支店）。	1	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）

	所在地		内容	分布区	掲載文献
65	彦根市	栄町2丁目	彦根監視哨 鐘紡長曾根工場前（現警察官公舎）。	7・8	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939） 『彦根市史』下冊（1964）
66	長浜市	朝日町	長浜監視哨 長浜警察署（現長浜市立図書館）屋上。	9	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
67	長浜市	野瀬町	野瀬（野）監視哨 大吉寺山山頂。	9・10	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
68	長浜市	木之本町大音	賤ヶ岳監視哨 賤ヶ岳山頂。	12上	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
69	草津市		草津監視哨 詳細不明	詳細位置 不明	「滋賀県防空通信系統図」（1939）
70	近江八幡市	宮内町	八幡監視哨 八幡山山頂	2	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
71	守山市	木浜町樋ノ口	速野監視哨 野洲川堤防上。	2	清水『防空監視哨調査』（2011） 『守山市史』（1974）
72	甲賀市	土山町大沢	土山監視哨 山頂にコンクリート基礎、聴音壕。	6	清水『防空監視哨調査』（2011）
73	甲賀市	甲賀町大原	大原監視哨	詳細位置 不明	「滋賀県防空通信系統図」（1939）
74	甲賀市	水口町水口	水口監視哨 古城山山頂。	5・6	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
75	甲賀市	信楽町長野	信楽監視哨 愛宕山山頂。コンクリート基礎。	5	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
76	甲賀市	鳥居野	大原村大字鳥居野小字河原田の丘陵高地に防空監視所を設置（年時未詳、 文章から昭和17年以降）	6	『ふるさと神村』（1999）
77	湖南市		石部監視哨 詳細不明	詳細位置 不明	「滋賀県防空通信系統図」（1939）
78	野洲市		野洲監視哨 詳細不明	詳細位置 不明	「滋賀県防空通信系統図」（1939）
79	米原市	岩脇	米原監視哨 神尾山山頂。	7	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
80	米原市	柏原	柏原監視哨 成菩提院裏山山頂。コンクリート基礎。	10	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
81	高島市	新町	高島（大溝）監視哨 新町の北町はずれ。	11下	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939） 『高島町史』（1983）
82	高島市	朽木市場	市場監視哨 丸八百貨店屋上→村役場屋上（現JA西びわこ朽木支店）。	11上	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
83	高島市	今津町今津	今津監視哨 旧役場内。	11上	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939）
84	高島市	マキノ町	海津監視哨 詳細不明	詳細位置 不明	「滋賀県防空通信系統図」（1939）
85	東近江市		八日市監視哨 詳細不明	詳細位置 不明	「滋賀県防空通信系統図」（1939）
86	東近江市	大森	大森町の法蔵寺の大銀杏のてっぺんに対空監視所があった。 これが八日市監視哨にあたるかは不明。	4	『大森のむかし』
87	東近江市	山上町	山上監視哨 山上町西の村はずれ。	4	清水『防空監視哨調査』（2011） 「滋賀県防空通信系統図」（1939） 『悠久の山里 ふるさと高野の歴史』

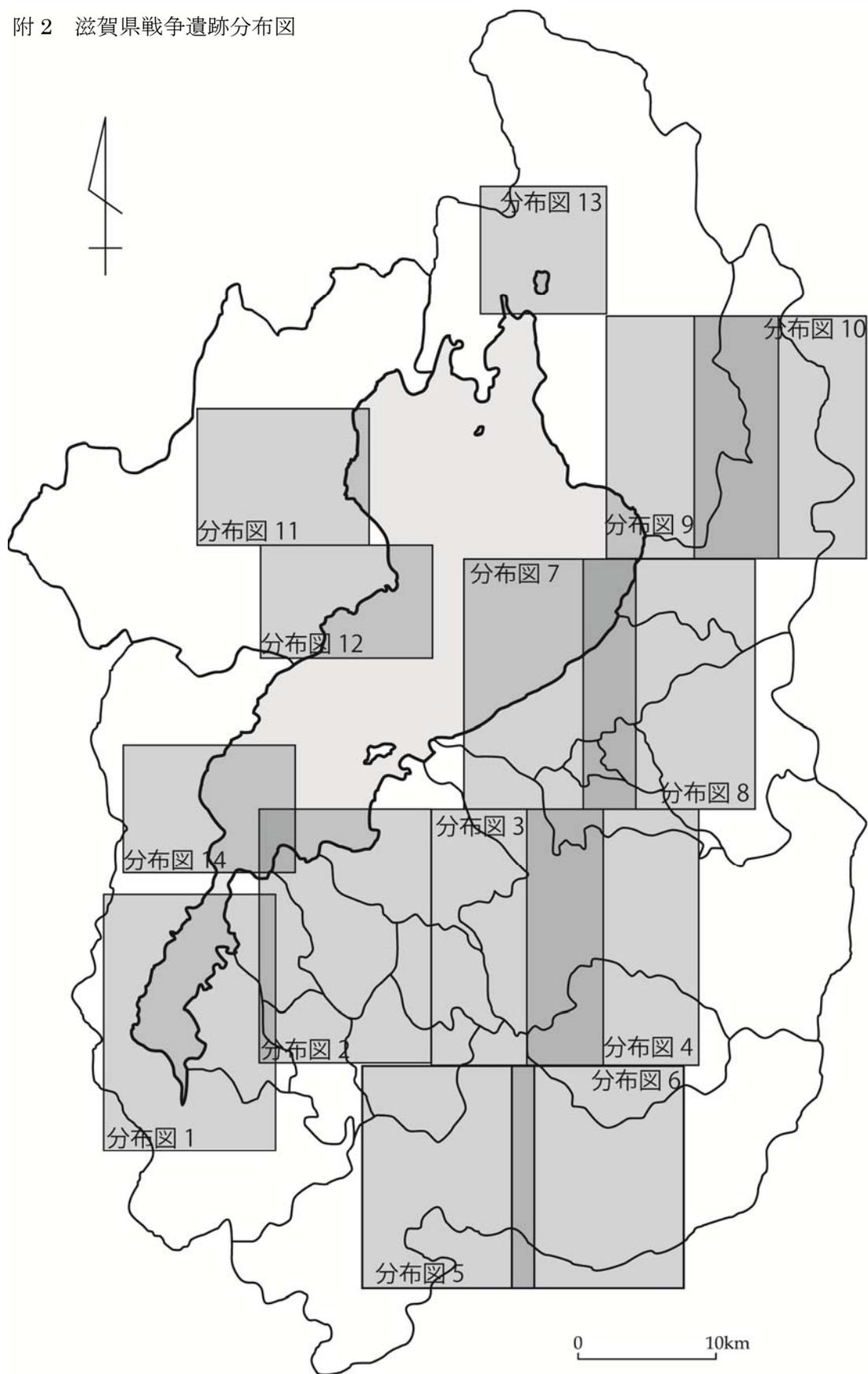
	所在地		内容	分布図	掲載文献
88	竜王町	鏡	鏡山監視哨 鏡の西山頂。	2	清水『防空監視哨調査』(2011) 「滋賀県防空通信系統図」(1939)
89	日野町		日野監視哨 詳細不明	詳細位置 不明	「滋賀県防空通信系統図」(1939)
90	愛荘町	愛知川	愛知川監視哨 愛知川警察署内(現滋賀銀行愛知川支店)。	7	清水『防空監視哨調査』(2011) 「滋賀県防空通信系統図」(1939) 「言上書」(1943)詳細図あり。
91	多賀町	一ノ瀬	大瀧監視哨 三徳山山頂。コンクリート基礎ほか。	8	清水『防空監視哨調査』(2011)

避難壕

	所在地		内容	分布図	掲載文献
92	大津市	月輪町	三井精機瀬田工場が疎開のために防空壕を掘削。	1	祈念館 [H07-049] 水谷『本土決戦と滋賀』(2014)
93	大津市	大津市	旧逢坂山隧道 疎開工場跡 68頁	1	水谷『本土決戦と滋賀』(2014)
94	大津市	滋賀里町	大津海軍航空隊地下壕	1	水谷『本土決戦と滋賀』(2014)
95	彦根市	古沢	旧佐和山隧道(近江航空疎開工場) 70頁	7・8	『新修彦根市史第3巻』2009 水谷『本土決戦と滋賀』(2014)
96	彦根市	金亀町	近江実習工業学校の防空壕 彦根城内の城山に今のグラウンドの方を向いた(城山西方?)100人ほどが入れる防空壕。	7	祈念館 [H19-025]
97	彦根市	金亀町	近江航空の防空壕 近江航空の裏、彦根城の外堀のそばに50ほどあった。	詳細位置 不明	祈念館 [H19-025]
98	長浜市	石田町	旧観音坂隧道 71頁	9・10	水谷『本土決戦と滋賀』(2014)
99	長浜市	鳥羽上町	旧横山隧道 72頁	9・10	『長浜市二十五年史』(1967) 水谷『本土決戦と滋賀』(2014)
100	近江八幡市	中屋	八日市分廠の地下壕 竜石山にあったが、旧安土町役場の造成で消滅。	3	水谷『本土決戦と滋賀』(2014) 中島『陸軍八日市飛行場 戦後70年の証言』(2015)
101	近江八幡市	内野	個人宅の庭に防空壕に使用した地下倉庫。	3	
102	甲賀市	油日	昭和19年 軍需物資の分散貯蔵のための貯蔵庫を設置開始 八つ尾、心径田、唐鉾、風呂が谷、その他などの山腹に、「コ」の字型にトンネルを掘り軍需物資を貯蔵。	詳細位置 不明	『ふるさと油日』(1998)
103	甲賀市	大野	布引山に防空壕。	詳細位置 不明	『幾山河』甲南町老人クラブ連合会 延寿会編(1999) 『終戦の日その日私は』終戦の日記 録刊行会編(1978) 水谷『本土決戦と滋賀』(2014)
104	東近江市	御園	御園小学校周辺松林の防空壕 「敵機接近となれば学校周辺の松林に掘られている防空壕にもぐりこんだ」	3・4	『川崎彰彦傑作撰』(2016)
105	東近江市	石塔山中	八日市飛行場関連の防空壕	詳細位置 不明	『蒲生町史』第二巻(1999)
106	東近江市	鈴山中	八日市飛行場関連の防空壕	3	『蒲生町史』第二巻(1999)
107	東近江市	鋳物師	八日市飛行場関連の防空壕	3・4	『蒲生町史』第二巻(1999)
108	東近江市	東組	虚空蔵とその広場に防空壕	詳細位置 不明	『悠久の山里 ふるさと高野の歴史』
109	東近江市	西組	産業会館(現公民館)に防空壕	詳細位置 不明	『悠久の山里 ふるさと高野の歴史』
110	東近江市	中蔵	個人宅裏に防空壕	詳細位置 不明	『悠久の山里 ふるさと高野の歴史』
111	東近江市	下高野	県道した暗渠に防空壕	詳細位置 不明	『悠久の山里 ふるさと高野の歴史』

	所在地		内容	分布図	掲載文献
112	米原市	岩脇	機関車避難壕 73頁	7	『近江町史』（1989） 水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』 (2015)
113	米原市		米原駅機能を補完する軌道と無蓋掩体（未完成、消滅）	7	水谷『滋賀の戦争遺跡と空中写真』 (2015)
114	米原市	磯	桑の葉貯蔵庫を防空壕に使用した。	7・8	祈念館〔H26-082〕
115	日野町	上駒月・ 下駒月	「昭和20年3月下旬 神集落の者が集落を越えて北へ向かい、ある土取山で 軍需品隠匿処の坑道を掘る。場所はよくわからないが、蒲生郡の駒月村で あったように記憶する」	詳細位置 不明	『ふるさと神村』（1999）

附2 滋賀県戦争遺跡分布図



戦争遺跡分布図 図郭